

e-learning と e-helping について

林 潔

今日の急速な技術的・社会的変化に伴う高等教育の需要拡大に対応する方法の一つが、インターネットを用いた学習活動 (e-learning) である。

また現在の援助活動についての要請も、多様なものがある。e-learningと同様の意味から、インターネットを用いた援助活動をe-helpingと呼ぶことができよう。

本報告では、高等教育機関におけるe-learningと、地域におけるe-helpingの機能と今後の可能性について検討する。

1. 高等教育におけるe-learning

(1) 今日のe-learning

e-learningの試みは、従来の遠隔教育の流れに位置づけられる。例えば英連邦およびアメリカでは、1960年代においても特に生涯教育 (continuing education) の一貫として、高等教育の遠隔教育の試みが普及していた (林, 1967)。この過程の中での象徴的なできごとは、1969年のイギリスの通信制の大学であるOpen Universityの開学である。

今日アジア・太平洋地域の大学/大学院においても、広くe-learningによる教育訓練が実施されている。なかでも経済・経営系統の課程が重視されている。これには変動するビジネス環境への、時間差の少ない訓練の機会を提供するという意図がある。e-learningの普及の要請は、リアルタイムの情報伝達、学校空間だけでは教育の機能を満たせないことと併せて、企業の場合研修のためにあまり個人の休暇を費すことができないということも背景にある。

この地域の例では、City Univ. of Hong Kong (Faculty of Business)ではオンライン環境によ

るe-MBAの課程をおく (その他Web Course Teachingシステム)。Hong Kongにおけるプログラムは修士課程段階までである。AustraliaのMurdoch Univ.のプログラム (Course Management System) WebCtの領域はビジネス、情報工学、法律、科学、工学、教育である。また同じくMonash Univ.の教育内容は、アートデザイン、ビジネスと経済、教育、工学、医療・看護・保健、理学部であって、修士課程までである。

またAmericaの総合的e-learningシステムの一つが、horizonliveである

(<http://www.horizonlive.com/>)。これは高等教育、教育職者への訓練、ヘルスケア・医療、販売・ビジネス、財務などのデスクトップ訓練プログラムを持ち、California 大学 Chico (rce@csuchico.edu) 校等と連携する。

このようにしてみると大学にかかわるe-learningのプログラムは、特定の大学が実施するプログラムと、大学の外部機関が主体となり学部・大学院のプログラムと連携するものとの2つのタイプがあることが理解できる。

(2) e-learningの役割

今日の高等教育の当面する3つの課題は、増大する学習予備軍への平等なアクセスの保証、21世紀の成人教育ニーズへの対応、多様化する教育ニーズと他の社会的ニーズとのコストのバランスである。特に未経験の状況における問題設定の能力、他の文化的背景をもつ人とのコミュニケーションと協力関係形成の能力、課題の特定とそれを効率的に学ぶ能力の形成が課題となる (OECD, 香取訳, 2000)。

OECD (香取訳, 2000) では新しい教育の機能

と技術を、以下のとおりあげている。

1. 電話会議 2. 音声画像会議システム 3. 音声フィードバック機能付きの片方向ライブビデオ
4. 双方向ビデオ 5. ファックス 6. 電子メールとコンピュータ会議 7. ビデオテープ（学生が実演し、教師が批判する） 8. デザインや、作曲、シミュレーション、実験結果の分析などに使うコンピュータ 9. 外国の言葉や文化を 修得するために使う外国からの本物のビデオ 10. 遠隔の図書館、コンピュータを使った研究のツール、データなどをオンラインで利用する 11. ライブ映像と収録されたビデオ 12. コンピュータのテュートリアルと演習

これらは、産業界におけるLearning Management Systemのプログラムの方法でもある。

(3) e-learningの実際

高等教育におけるe-learningの機能は、2つの視点に分けられる。一つは学生層の拡大によって対応が求められている学習の基礎の訓練、一つは学習活動の促進である。

1. 学習の基礎の訓練

1) Study skillsあるいはlearning skillsの訓練(例 上村, 2002), Univ.of Arizonaの例(注1)。University Distance Boardによって2003年春より実施予定(Learning Assistance Centre, Univ.of California, Long Beach)

2) 特定領域の基礎知識の習得

2. 学習活動の促進

1) 学位、特に修士取得

2) 特に学位取得にかかわらない訓練

a. 資格取得に関連するもの

b. 資格取得に関連しないもの

わが国の大学におけるe-learningの試みは、私立大学情報教育協会(私情協)の機関誌“大学教育と情報”に逐次紹介されている。私情協(2002)

の調査によると3年後伸びが顕著な情報機器使用計画はTable 1のとおりである。

Table 1 3年後の情報機器使用計画

1. MS-PowerPoint等で作成したスライドを提示する	63.5%
2. インターネットで検索した関連情報を提示する	60.6%
3. Webページに教材・資料・小テスト等掲載して学生が自学自習	57.1%
4. 授業の映像・音声・教材などを電子化しイントラネットで参照	33.6%
5. シミュレーションソフトウェア等を使用した模擬環境による実験	37.2%
6. CAIやCALLによる演習・実習を行う	25.8%
7. 教員-学生間のコミュニケーションの手段(ネットワークで課題提示・レポート提出)として使用する	64.3%
8. 授業中に多人数の理解度を把握する手段としてパソコン、携帯電話、PDA等を活用する	36.7%
9. 国内外の大学とWebページ等を用いてオンデマンドによる遠隔授業を行う	24.3%
10. 学生の意見、学習成果・作品をネットワーク上で発表し、専門家の公表を受けられるようにする	33.7%
11. TV会議方式等により他大学とリアルタイムで双方向の授業を行う	21.9%
12. 他大学教員・企業等の専門家からインターネット等を介して遠隔地から体験・現場情報の提供を受ける	36.5%
13. その他	2.3%

2002年の私情協主催の第10回情報教育方法研究発表会では4つの分科会がある。情報専門分野の教育、リテラシー教育での特徴の一つが映像メデ

イアの開発である。語学教育、教職課程では関心の対象は英語、中国語、フランス語の順番となる。専門分野の教育における応用活用では医学・工学など理系の内容が主である。教育システム・ソフトのカテゴリーでは授業支援・教材開発が関心を持たれている。

この2つの私情協の情報で見ると、現在のところでは、大規模なシステムの構築よりも、とりあえず身近なところから着手しようという姿勢が一般的といえる。

インターネットによる授業支援は次のタイプに分けられる。

1. 特定のクラスへの援助

A. クラス内

授業時間内でのインターネットを用いた授業支援。

B. クラス外

授業時間外でのインターネットを用いた授業支援。

2. 学校内のシステム（遠隔キャンパス間のシステムをふくむ）

A. 基本的援助 Study skills, 白梅で実施している学生のケータイへの心理学用語の解説。

B. 授業支援

3. 学校間のシステム

筆者は1998年より授業についてのe-mailによる質疑応答を、1999年よりインターネットによるレポート受理を行っている。

その印象は以下のとおりである。

1. インターネットによる質疑応答

A. e-mail利用の場合

a. 利点 疑問や質問は時間が経過した後で生じることがある。この方法は授業の間隙を補い、常時の質問受付の役割を果たす。特に授業の前後しか質疑の時間がとれないクラスの場合や、同様の条件にある講習会の場合の補助手段として有用である。また

時間の不足を補うことと、フィードバックの役割もある。

b. 欠点 質問が集中した際に、通常の受送信システムでは短時間では対応しきれなくなる。

B. ホームページ利用の場合

a. 利点 e-mail利用の場合と同様のことがいえる。

b. 欠点 ホームページの利用は利便性が強い。そのために、特に苦勞して本で調べる習慣に影響を与える懸念がある。

2. インターネットによるレポート提出

A. 利点 添削が便利である。

B. 欠点 当該学生が執筆したレポートか、判断しがたい。

この、レポート収集の利便性と教育的意味については、そのシステムも大きく関与する。容易なシステムも開発されている（例 eXbinder mailの利用（川場, 2002）、個人レポート蓄積システム（藤原, 他, 2002））。

ただし現在のところまだ一般的な認識としては、遠隔授業は次善の手段と認識されているところはある。遠隔授業には授業参加への動機と、緊張回避の動機が関与する（遠藤, 2002）。また授業におけるVTRの利用でも、関心をもつ層と希薄な層との分化がシャープになることがある。e-learningの効用と限界を示唆するものでもあろう。その中でもとかく受け身になりやすい受講者の積極的発言を促す試みもなされている（杉原, 2002）。

2. e-helping

(1) e-helpingの役割

インターネットを用いた援助機能としては、1. カウンセリング・心理教育（Psychoeducation）、2. 一般的援助活動、3. 情報提供と情報やコミュニケーションの伝達・交換の役割があげられる。

インターネットを用いたカウンセリング活動の試みは、1990年代から始まる。

すなわちEnglandのSamaritans

(<http://www.samaritans.org.uk/>) のe-mailによる自殺防止カウンセリングが試験的に開始されたのが1994年である (Rosenfield, 斎藤・川島訳, 1999)。わが国ではインターネットを用いたカウンセリング活動は90代後半から始まる。

(2) e-helpingの機能

(A) 文章を基本とした対象理解

インターネットによる援助活動は、文章によるコミュニケーションの方法の一つである。ここでは文章表現から執筆者を推測することが求められる。従ってこれは文章心理学の流れにも位置づけられる。例えば子どもの文章について波多野 (1988) は、対象の叙述課題について、児童の場合2つの反応様式をあげている。

すなわち感情型 (対象から受ける感じ, 気持, 感想等の描写が大部分で多くの場合美文型。反応が敏感でピチピチしていわゆるチャメ) と, 知能型 (対象の叙述が極めて精緻で, 主観的な情緒はほとんど描かれていない。観察力に秀で常に用意周到でしっかりしている) である。

メールの相談でも, 文中に学述語が用いられることがある。

しかし留意すべき点は, 学術語が一般用語の中にながれこむ場合, 学術語は多くもとの厳密なワクを失って, 人々の直感的な意味把握にゆだねられる。そして学述語をことさら使うことによって, 特殊の感情を盛ろうとするのが, 日常における学術語の使用である (波多野, 1988)。

(B) 言葉かけの特徴

インターネットの場合も, コミュニケーションの送り手と受け手からなる一つのシステムである。

あるシステムにはそれを維持しうまく機能するように, 主にマネージメントを行う役割の者が存在するのではないかと考えられる。その役割を果たす者がマネージャーであり, 言語交渉の内容がマネージメント言語である (田上, 他, 1998)。そして協労的なリーダーの場合, 相手の情報を重視したマネージメント言語を多く用いる (一井, 他, 2002) (注2)。

(C) 表現の手段としての記号

メールでは記号が表現の一つの方法となっている。メールにおける唯一の非言語交渉の手段である。

メール中の記号は, 大原ら (2002) によれば, ! は他の記号に比べて肯定的・明確・気持ちよい, . . . は, 難しい・否定的・暗い・曖昧・気持ち悪い, ☆は, 柔らかい・肯定的・明るい・気持ちよい, ? は, 暗い・曖昧というイメージがある。

(D) 一般的なメールの相談の技法

一般的に用いられる, メール相談の技法は次のとおりである。

人は他者とのかわり方で自分をとらえる。従ってこの場合も, 面接の場合と同様に受容的な対応が基本となり, 進行に応じて対応の仕方を変化させる必要もある。このことから, IveyのMicro-counselingの手続きが参考になる。なお以下の例は面接と併用の場合をふくむ (イタリックは相談を寄せる側の発言)。

(a) 受容的応答

i. 受容

どうしたらいいのか . . .

「どうしましょう」

ii. 明確化

本当に独占欲が強くなって

「独占欲が強いんじゃないかなとも思うんだけど、お互いに一番の友達だと思えるようになりたいんですね」

iii. 要約

このまま親と一緒にいてもどうしようもないんです。自分が行き詰まってしまうのではないかと思うんです。

「結局は, 家を離れようかどうかということなのですね」

(b) 判断

i. 仮の分析

他に行きたい学校があったんです。ここも悪くはないんですが . . .

「あなたの問題は, 学校を続けようかどうしよ

うかというように理解したのですが」

ii. 解釈 面接との併用の場合は可能性はあ
るとしても、メールのみの場合解釈の活用には限
界がある。

(c) 情報提示

一般的な情報の提示である。

(d) 指示

i. 一般的指示

薬は飲んでいるのですが、ここ一か月くらい胃
が痛いです。テストの時期だからでしょうか。

「胃が楽になってきたと、暗示をかけるのはど
うでしょうか」

ii. 選択肢の提示

「問題への対応としてA, B, Cの方向が考えら
れます。Aをとった場合のいい点、まずい点をあ
げてください。B, Cの場合はどうですか。」「そう
するとこの3つの解決法のうち、どれがいいと思
いますか」

(e) フォームの利用および判断決定の学習

本誌第5号参照。

(3) e-helpingの実際

援助活動において双方向テレビの利用は、まだ
普及をしていない。現在のところ、相互コミュニ
ケーションの基本は、e-mailの利用である。

(a) e-mailの相談

このタイプの相談は、一問一答のパターンに流
れるきらいはある。また次のメールが来るかどう
か分からないために、一般にどうしても結論を急
ぐ傾向がみられる。

(b) 面接併用の援助

メールと面接併用の試みである。経過のチェッ
クにも役立つ。

(c) Web頁の利用

Web頁を用いる方法は、一般的対応から個別
的対応の過程として活用される。

メールとの併用の方法もある(例 Australiaの
Depressionet (www.depressionet.com.au),
女子生涯教育としての歴史のある The

Minnesota Women's Center

(mnwomen@tc.umn.edu) など。

メールとWebを用いた組織的學生援助の試み
が、Telementoringである。これにはキャンパス
のボランティアも参加する(Kennedy &
Kenndy, 2002)。

(d) 指導援助, 交流活動

インターネットを用いた, 多様な指導援助, 交
流活動がある。その例をあげる。

i. 禁煙指導 奈良市立病院の1997よりの実施
例 (Takahashi, et al, 2002)。

ii. ダイエット指導

毎日の体重とダイエットの報告とリンクさ
せた対応 (Haapala & Surakka, 2002)。

iii. ケアマネジメントにおけるメールマガジ
ンの利用

紀和病院在宅看護支援センターの例 (畠中,
2002)

iv. 自己援助グループ

障害児家族の自己援助グループ (岩本,
2002)

(4) e-helpingの課題

メールの相談, 特にケータイ利用の場合では文
章が短くなる傾向がある。文章が短いと, いきお
い文章解釈の余地が拡大する。ここに意味論上の
問題が関与する可能性がある。メールの受信を気
にする行動は, メール特有の短文化された一方
性のやりとりが感情の伝達に制限をもたらすこと
から, 誤解を招くのではないかという不安をもた
らす(藤原, 2002)という指摘がある。また必ずし
もすぐ返信ができないことで信頼関係が崩れやす
いという弱点がある(注3)。メールを送る側では
早急な返信を待っている。これにはメールの相談
のシステムがかかわってくる。なお青年の場合に
は面接とインターネットによる援助と内容を使い
分ける傾向がある (Rickwood, 2002)。

対人関係で防衛的, 閉鎖的な人ほどオンライン
とオフラインでは自己像のずれが大きい (田中,

2002)。またメールのコミュニケーションは、音声の場合よりも協動的である可能性が示唆される(佐々木・大淵, 2002)。このように、メールの場合は音声言語によるコミュニケーションとのずれがある。そしてメールの場合、非言語的表現をもう一つの言葉として利用できないので、物事を伝えたい場合は、短文になるほど相手に誤解を招きやすくなる(武市, 他, 2002)。メールと電話の併用も一つの方法であろう。

一方メールの相談は、文書によるために、特に外国人対象の場合相互の誤解が少ないという利点はあるのではなからうか。しかし外国人対象のメールによる相談は、現在ほとんど行われていないといってよい。英・仏・中・ハングル・スペイン語の相談を行っている東京都外国人相談係(03-5320-7744, 他)や、タガログ語の相談を行っている聖公会のカパテイラン(03-3432-3055)も目下のところ電話のみである。外国人によっては、メール端末を所持できない人々が少なくない。その関係でメールによる相談の機会を設定しても、電話の相談は多いがメール利用者が少ないので実施を打ち切ったところもある。

メールの相談の訓練も一部で始められている。なおAustraliaの全国規模のメールの相談機関、Kids Helpline (<http://www.kidshelp.com.au>)では電話相談の訓練を行った後にメールの訓練を行っている。基本的な流れであろう。

インターネットによる相談活動は若者の精神的支援に役立つ。すなわち、情報源の提供同じ問題をもつ人とのリンク、インターサポートグループ、専門家の助言へのリンク、ピアサポートである(Rickwood, 2002)。また自助(self-help)グループの活動も、メンバーの時間の調整が難しいことがある。インターネットはそれを補完する役割を果たす一つの可能性がある。しかしインターネットの大量の情報に埋没しかねないとき、個々の情報について確認し、尋ねる相手を人は求めている。メールはこのような役割を果たす。なお他国では有料のメール相談も少なくない(例

Australia 1メールあたり無料から44豪ドル(約3000円程度)まで分布している。2002年10月現在)。このような試みが一般化した場合には、料金のコントロールも課題となってくる。また普及に伴って電話相談と同様に、この場合もさまざまな利用者の相談から相談員を守る方策(長瀬, 他, 1998)が求められてくる。

一朝臥病無相識 三春行楽在誰辺(劉廷芝)という。さまざまな状況の人々に、いろいろなかわりが求められよう。

4. 課題と展望

教育と援助との機能は相互に重複する。従って、e-learningとe-helpingの役割は共通するところがある。

例えば養護学校での遠隔教育システム利用の就労支援は学習と援助の合併した試みといえる(丹羽, 2002)。また不登校の子と電子掲示板で関わった人は不登校へのイメージが変わる(秋田・小林, 2002)。

特に成人の学習活動は、当面する課題活動の手段として行われる場合も少なくない。その意味で機能的にもe-learningとe-helpingの役割とは一致するところがある。ちなみに画面を通じて人々が一番求めているものは「医師に相談や診断」である(ALIC, 2002)。

学習、援助共に、情報が文字と併せて映像でも提示される。従って学習・情報内容提示の妥当な映像提示のシステム(映像文法)の開発が望まれる。またe-learningとe-helpingのシステムと方法とは互換性がある。学習過程において援助機能が求められ、カウンセリングあるいは心理社会的(psychosocial)援助過程においても学習機能が求められることがある。従ってこれらの学習と援助の機能は、統合された形での発展も一つの方向である。すなわちCAI(Computer Assisted Instruction)とCAH(Computer Assisted Helping)の機能の統合も求められるのである。ただし、ある中学生の次のようなコメントがある。

“顔も名前も知らない相手とよくメールするけれど、メールで会話をするのが一番楽し面白い。このやりとりの中で、別に学校に行かなくてもいいやという考えが出てきた。メールを打つ時、外と全く遮断してしまう雰囲気を感じる”。学習、援助のいずれの場合にせよ、直接的コミュニケーションをふくむ他の機能とのバランスの下での発展が期待される。

注1 University Learning Center,
University of Arizona *The Motivated
Strategies for Learning Questionnaire*
(http://www.ulc.arizona.edu/quick_mslq.html)

次の質問を読んで下さい。丸の所をクリックして下さい。全部すんだらSUBMITボタンを押して下さい。1=全くあてはまらない 7=いつもそうだ (2以降回答欄省略)

1. 授業の間他のことを考えているので大事なところがよく分からない
○1 ○2 ○3 ○4 ○5 ○6 ○7 ○8 ○9
2. 授業の本を読んでいる時、問題意識もって読む。
3. 読んでいて分からなくなったら、よくそれを考えてみようとする。
4. 授業のテキストや資料がよくわからなければ、勉強の仕方を変えてみる。
5. 新しい本や資料を読む前に、全体をざっとみてる。
6. 勉強中の本や資料がよく理解できているかどうか確認してみる。
7. 勉強の内容や先生のやり方に合わせるために、自分の勉強の仕方を変えてみる
8. 授業のための本を読んでも、よく分かっていないことがよくある。
9. ただ読むだけではなくてトピックや、それがどんなことに役立つのか考える。
10. 勉強するときどういうことがよく分からないのか確かめてみる
11. 勉強をする時、この期間どこまでやるか目標

を設定してみる。

12. ノートを取っている時に分からないことがあれば後で確認してみる

注2 課題志向的リーダーシップ (問題点を指摘し、課題を与えて実行させる) 協働的リーダーシップ (問題点を整理し、課題を話し合い、実行しやすいように促す) (一井, 他, 2002)

注3 白梅学園短期大学2002年度前期学生相談室活動報告, 2002

参考文献

秋田有紀子・小林正幸 2002 不登校問題専用ホームページ上の電子掲示板に関する研究 (3) 日本カウンセリング学会第35回大会発表論文集, 157.

浅沼志帆 2002 Eメールカウンセリングのアクセサビリテイ 電話相談学研究, 12, 57-65.

Botelho,R. 2002 Training in motivational skills: Using web-based distance learning programs. *International Journal of Behavior Medicine*, 9, Supplement 1, 51-52.

Buller,D.B. 2002 Using web-based technology to deliver cancer prevention programming. *International Journal of Behavior Medicine*, 9, Supplement 1, 57-58.

Dijksra,A. 2002 Integrating tailored intervention in health practice. *International Journal of Behavior Medicine*, 9, Supplement, 75.

遠藤健治 2002 遠隔授業と学習効果について 日本心理学会第66回大会発表論文集, 1139.

Fleming,M., Rickwood,D.J., Miller,O., Waugh,K., & White,A. 2002 Advances in using the internet for mental health problems. *Australian Journal of Psychology*, 54, Supplement, 26.

Fotheringham,M.J. 2002 The internet as a

research tool for behavior medicine.

International Journal of Behavior Medicine, **9**, Supplement 1, 89.

婦人の地位に関する各省間委員会・合衆国労働省婦人局・ミネソタ大学女子継続教育センター・ラドクリフ大学ラドクリフ研究所 林潔・稲毛裕子編訳 1970 アメリカの女子職業と再教育 図譜出版

藤原珠江・辻早苗・吉武久美子・山口結花 2002 女子大生における携帯電話の利用実態とメールコミュニケーションが及ぼす心理的効果 日本電話相談学会第15回大会プログラム, 26-27.

藤原勉・永沼晴紀・井手口健 2002 学習履歴展示WEBの構築におけるレポート提出システムの開発と運用 第10回情報教育方法研究発表会予稿集, 104-105.

Gellman, M.D. 2002 The use of the internet as a communications tool in behavioral medicine. *International Journal of Behavior Medicine*, **9**, Supplement, 93-94.

Haapala, I. & Surakka, L. 2002 The role of self-efficacy and program contact in teledieting. *International Journal of Behavior Medicine*, **9**, Supplement, 101.

畠中早苗 2002 メルマガを利用するケアマネ訪問看護と介護, **7**, 80-83

波多野完治 1988 文章心理学 小学館
林潔 1967 余暇と継続教育 図譜出版
一井直子・石井宏祐・若島孔文・長谷川啓三 2002 課題遂行場面におけるリーダーの態度とマネジメントコミュニケーションとの関連について 日本家族心理学会第19回大会プログラム・発表抄録集, 39.

岩本聖子 2002 インターネット上のセルフヘルプネットワークの現場から 心理学ワールド, **19**, 17-20.

柿井俊昭・藤生英行・田上不二夫 2002 マルチメディア・カウンセリングでの画像合成による振り返り研究 日本カウンセリング学会第35回大

会発表論文集, 123.

川場隆 2002 講義用メールシステムとインターネットなレポート集配システムを活用した授業運営 第10回情報教育方法研究発表会予稿集, 100-101.

Kennedy, M., & Kennedy, P. 2002 Telem tutoring at CQU. *Journal of Australian & New Zealand Student Services Association*. **20**, 54-69.

Miller, O., White, A., Rickwood, D.J., Waugh, K. 2002 Factors affecting the use of the internet to seek help. *Australian Journal of Psychology*, **56**, Supplement, 46.

仲田洋子 2002 電子メールを用いた不登校児支援に関する研究 カウンセリング研究, **35**, 276-285.

長瀬治之・今川民雄・林幹男・日高正宏・東山弘子・有田モト子・高塚雄介 1998 電話相談の今 日本心理臨床学会第17回大会発表論文集, **17**, 77.

丹羽登 2002 遠隔授業教育システムを利用した就労支援教育の期待と効果 日本教育心理学会第44回総会発表論文集, 652.

OECD 1996 *Information technology and the future of post-secondary education*. (香取一昭訳 2000 ラーニング革命 エルコ)

大原路子・高木留美・原田絵美・丸山裕美・宮城美琴・吉田愛・小林美紀子・四宮チエ 2002 インターネットコミュニケーションにおける記号の持つイメージの調査, 2001年度白梅学園短期大学心理学科卒業研究発表会資料, 13-14.

小此木啓吾 2000 「ケータイ・ネット人間」の精神分析 飛鳥新社

大塚一徳 2002 Webを利用したリアルタイム授業評価と授業内容との関連 日本教育心理学会第44回総会発表論文集, 84.

Rickwood, D.J. 2002 Developmental patterns in using the internet to seek help for mental health problems in adolescence.

Australian Journal of Psychology, **54**, Supplement, 52.

Rosenfield, M. 1997 *Counseling by telephone*. (斎藤友紀雄・川島めぐみ訳 1999 電話カウンセリング 川島書店)

佐藤澄子・小杉正太郎 2002 企業におけるインターネットを使用した適応援助 日本心理学会第66回大会発表論文集, 1190.

佐々木美加・大淵憲一 2002 電子メールにおける非言語メッセージの欠如はネガティブな相互作用を促進するか? 応用心理学研究, **28**, 17-26.

先進学習基盤競技会 (ALIC) 2002 eラーニング白書2002/2003年版 オーム社

Stone, C. 2002 Counselling via email: applying therapeutic letter-writing skills to new technology, *Journal of the Australian & New Zealand Student Services Association*, **19**, 61-77.

杉原明 2002 インターネットを活用した新しい通信教育 大学教育と情報, **10**, 4, 8-10.

鈴木明美 2002 不登校生徒に対する電子メールによる心理的援助 日本カウンセリング学会第35回大会発表論文集, 62.

田上恭子・山内裕絵・菅原雪絵・小林愛・野口昌宏・長谷川啓三 1998 コミュニケーションのマネジメント的側面に関する実験的研究 日本家族心理学会第15回大会プログラム・発表抄録集, 19.

Takahashi, Y., Higashiyama, A., Miura, H., & Ota, A. 2002 Smoking cessation program using the internet. *Journal of Behavior Medicine*, **9**, Supplement 1, 265.

武市弥茶・花島紀子・山下奈々・青木牧子・萩原香織・檜山明子・本田奈緒 2002 もうひとつの言葉—メール・電話・対話の違い 2001年度白梅学園短期大学心理学科卒業研究発表会資料, 21-22.

田村毅 2002 インターネットカウンセリングの可能性 三永恭平・斎藤友紀雄・平山正実・深

田未来生 現代キリスト教カウンセリング2 日本基督教団出版局

田中美帆 2002 インターネット上の自己に関する研究 日本心理学会第66回大会発表論文集, 60.

上原巖 2002 外国籍クライアントと電子メールで補完しながら行ったカウンセリングの事例 日本カウンセリング学会第35回大会発表論文集, 60.

上村和美 2002 一斉授業と個人学習での相互利用をめざしたスタディ・スキルの教材 第10回情報教育方法研究発表大会予稿集, 108-109.

Waugh, K., Miller, O., White, A., Rickwood, D. J., Fleming, D., & Denham, G. 2002 Developing an online counselling service. *Australian Journal of Psychology*, **56**, Supplement, 63.

矢守克也「開かれた大学」に関する実践研究 日本教育心理学会第44回総会発表論文集, 151.